

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

| | |
|--|----------------------|
| 氏名： 北村 由美 | 提出日：平成 23 年 3 月 25 日 |
| 東南アジア研究所における職名： * 右記の該当する職位に○をつけて下さい。(講師・ <input checked="" type="radio"/> 助教・助手・ポスドク・博士課程学生・修士課程学生・学部学生) | |
| 派遣先の研究機関等（調査を実施した国名・機関名及びカウンターパートの研究者名）： オランダ・ライデン大学国際アジア研究所・ライデン大学歴史学科 Leonard Blusse 教授 * 派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所に○をつけてください。(大学・ <input checked="" type="radio"/> 研究機関・企業・その他) | |
| 派遣期間： 平成 23 年 1 月 10 日 ~ 平成 23 年 3 月 11 日 (派遣日数：61日) | |
| 研究活動等の主な内容（該当する番号に○をつけてください。複数可） <input type="radio"/> ①研究・実験、 <input type="radio"/> ②フィールドワーク、 <input type="radio"/> ③セミナー、 <input type="radio"/> ④インターンシップ、 <input type="radio"/> ⑤サマースクール等の講習、 <input type="radio"/> ⑥学会出席、 <input type="radio"/> ⑦単位取得等、 <input checked="" type="radio"/> ⑧その他 | |
| 研究活動の主な領域（該当する番号に1つ○をつけて下さい。） <input type="radio"/> ①人文学、 <input checked="" type="radio"/> ②社会科学、 <input type="radio"/> ③数物系科学、 <input type="radio"/> ④化学、 <input type="radio"/> ⑤工学、 <input type="radio"/> ⑥生物学、 <input type="radio"/> ⑦農学、 <input type="radio"/> ⑧医歯薬学、 <input type="radio"/> ⑨総合領域、 <input type="radio"/> ⑩複合新領域 | |
| 派遣の概要（500～700 字程度） <p>今回の派遣の目的は、ライデン大学国際アジア研究所に研究の拠点をおき、第二次世界大戦後オランダに移住したインドネシア華人の足跡を、文献資料とインタビューから明らかにすることであった。申請者はこれまで、現代インドネシアにおける華人文化の動態に関してインドネシアをフィールドとして調査を行ってきた。これらの調査から、特に2000年以降、インドネシアにおける民主化と中国のプレゼンスが上昇する中で、インドネシア華人の文化やアイデンティティが再構築されていく過程が明らかすることができたが、20世紀の東南アジアにおける重要な歴史的イベントである脱植民地化と冷戦が華人に与えた影響を検証するまでにはいたらなかった。今回の派遣期間に、第二次世界大戦後にインドネシアから移住した華人の調査を行うことで、個人史を通じた20世紀のアジア像の一端を理解することができた。</p> <p>文献資料に関しては、ライデン大学内に位置する王立言語地理民族学研究所 (KITLV) 所蔵の二次資料をはじめ、国立公文書館や社会史研究所 (Institute of Social History) 所蔵の一次資料のサーベイを行い、活用することができた。インタビューに関しては、1946年～2000年に移住した合計20名から聞き取りを行った。うち約10名に関しては、自宅へ2回以上訪問し、In depth インタビューを行うことができた。今後は、これらの調査結果を精査し、口頭発表や投稿論文という形で公表する予定である。また必要に応じて、オランダ、インドネシア、中国における追加調査を行いたいと考えている。</p> | |
| 事業に係る研究成果（500～700 字程度） <p>今回の派遣では、本事業が目的とする国際的な地域研究機関における人的交流をはじめ、東南アジア以外の場所における東南アジア華人に関するフィールド調査を行うことによって、20世紀の東南アジアにおける脱植民地化とめぐる冷静構造が華人に与えた影響について総合的に検討する機会を得た。人的交流に関しては、フェローとして滞在したライデン大学アジア研究所内外において、ヨーロッパ、アジア、オーストラリアの大学・研究所に所属する人文・社会科学系のアジア研究者らとの議論を通し、オランダにおけるインドネシア研究に関する知見を得ると同時に、移民研究・移民史研究者との知的交流が図れたことは、大きな成果であった。</p> <p>今後は今回の派遣によるフィールド調査で得られたオランダに移動したインドネシア華人のインタビュー結果の分析をすすめることで、世界に広がるインドネシア華人を一例とした、ヒトの移動がグローバル化する現代社会における「地球共生」のモデル提示を行いたい。</p> | |